



多良岳200年の森



多良岳200年の森つくり委員会
平成26年10月

多良岳200年の森(趣旨)

我が国の森林の多くは、戦後にスギやヒノキ等の針葉樹を主体に人工造林された森林である。

当地域においても人工林率は約73%となっており、林齢40年生以上の割合も75%を超える木材資源としてだけではなく、水を育み災害から住民の生活を守る公益的な森林資源としても充実している。

また、我が国の林業は近年まで、標準的な伐期齢を40~50年に定めて森林資源の循環利用を目指してきた。

植林し、下刈・枝打・間伐等の保育作業、伐採のサイクルを繰り返すことで森林が管理され、森林資源が再生産されると共に後継者へ伝承してきた。

しかしながら、現状は木材価格の低迷により主伐が手控えられ、森林保全が高齢級に移行している状況にあるが、高齢級森林の管理技術は確立されていない。

このため、全国の高齢級の森林の状況を調査したが、秋田県の秋田杉や鹿児島県の屋久杉などの天然林はあるが、有名な林業地を見ても100年を超えるような人工林地は数少ない。

更に200年を超える森林となると、名所や神社・仏閣等の敷地内に確認される程度しか存在していない状況である。

こうした中で、長伐期大径材の生産を目標に「多良岳200年の森」を立ち上げることとなったが、計画的に長伐期人工林の造成を実践していくことは、今後の森林林業において重要な取り組みである。

また、多良岳山系は地質や気象条件にも恵まれており、長伐期林の適地と考えられる。特に、当太良町の森林は、森林所有者をはじめ関係者の努力によって「枝打100万本運動」や「多良岳材産地づくり」などに取り組み、九州でも屈指の組織的に管理された人工林となっており、これらの資源を生かして長伐期大径材生産と森林の持つ防災、水源涵養、生物多様性の確保等様々な公益的機能を併せ持つ森林づくりを目指した「多良岳200年の森」を太良町のシンボルとして設置する。

多良岳200年の森の事業主体及び管理者

- 事業主体：太良町
- 管理予定者：太良町森林組合

多良岳200年の森の活用

- 県内でも有数な林業地である多良岳山系森林のPR拠点とする。
- 長伐期施業の研修や児童生徒等の森林体験の場として活用する。
- 長伐期施業、大径材生産に関する施業技術の習得のための演習林として活用する。
- 林業の社会的使命を示すため、新たな人工林として複層の針広混交林に移行することにより森林の各種公益的機能の発現を展示する場として活用する。
- 間伐により、優良大径材を定期的に出荷し木材の良さを広く周知する経済林として活用する。

200年の森
目標とする森林の形

区分	ヒノキ林分	スギ林分	摘要
成立本数	100本	80本	
平均胸高直径	100cm	120cm	
平均樹高	40.0m	45.0m	
ha材積	1,215m ³	1,182m ³	
1本当たり材積	12.15m ³	14.78m ³	

今後の施業について

1、間伐について

- ① 林分毎に、早期に目標本数に到達させることを目標に比較的短い間隔で利用間伐を実施する。
- ② 50年～80年までは、概ね6年間隔で実施し、80年生以上については、概ね15年間隔で間伐を実施する。
- ③ 間伐方法は、定性間伐で将来木施業を実施し、第1回間伐時に将来木候補の第1候補、第2候補を選木する。
- ④ 間伐の目安

【スギ林分】

樹齢	50年	56年	62年	68年	74年	80年	95年	110年	125年	140年	155年
本数	830本	620本	470本	350本	280本	220本	175本	140本	110本	90本	80本
間伐率	25%	25%	24%	26%	20%	21%	20%	20%	21%	18%	11%
伐採本数	270本	210本	150本	120本	70本	60本	45本	35本	30本	20本	10本

【ヒノキ林分】

樹齢	50年	56年	62年	68年	74年	80年	95年	110年	125年	140年	155年
本数	880本	700本	560本	450本	360本	290本	230本	185本	150本	120本	100本
間伐率	20%	20%	20%	20%	20%	19%	21%	20%	19%	20%	17%
伐採本数	220本	180本	140本	110本	90本	70本	60本	45本	35本	30本	20本

2、複層林施業について

利用間伐により、下層植生の生長に必要な林内照度が確保できる時点で下層木の植栽を実施することとし、ha当りの成立本数300本以下(立木間隔6m)の時点を目安とする。

- ① 天然広葉樹の区域 21ha

天然萌芽した広葉樹を育てる。

- ② 人工広葉樹植栽の地域 15ha

ケヤキ・イチョウ・サクラ等有用広葉樹を植栽する。

③ スギ・ヒノキ植栽の区域 15ha

複層林を造成する スギ 5.0ha ヒノキ 10.0ha

3、作業路の設置について

将来の保育管理及び視察・研修等の利用を考慮して、ha当り200mを目標とする。

4、枝打ちについて

現状では、スギ・ヒノキ共6mまで実施済であるが、スギ林分については、自然落枝や間伐実施時において枝が落ちるため実施しないが、ヒノキについては10～15mの枝打ちを実施する。

5、定点の管理箇所の設置と記録

施業実施から10年毎の林分の植生や生長量等を定点の管理箇所毎に記録する。
記録には、現地の毎年の気象概況についても記載する。

管理点の面積 $31.63\text{m} \times 31.63\text{m} = 1,000\text{m}^2$ 林分毎に18ヶ所を設ける。

6、200年の森運営方法

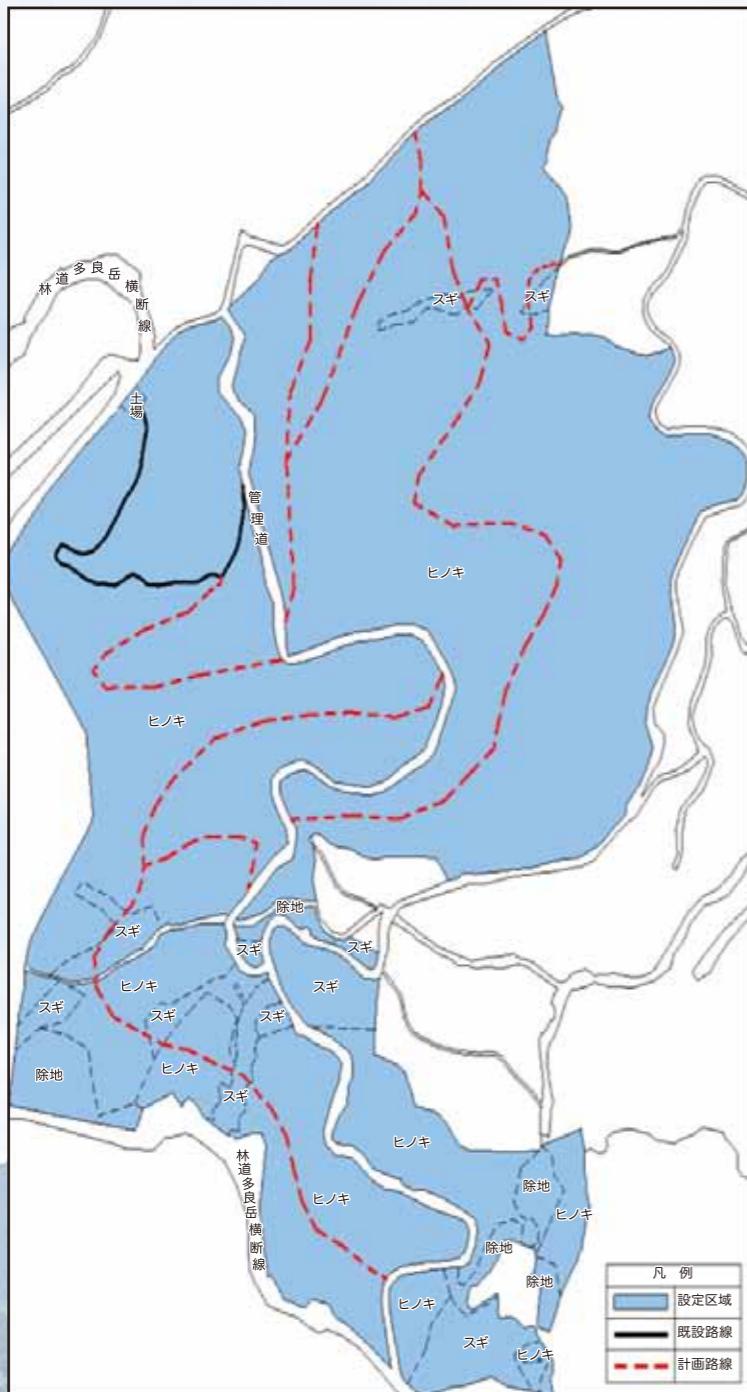
管理方法等については、幹事会・委員会を毎年開催し計画を作成し管理施工を実施すると共に施業実施状況を報告する。

7、多良岳200年の森組織

平成26年10月1日現在

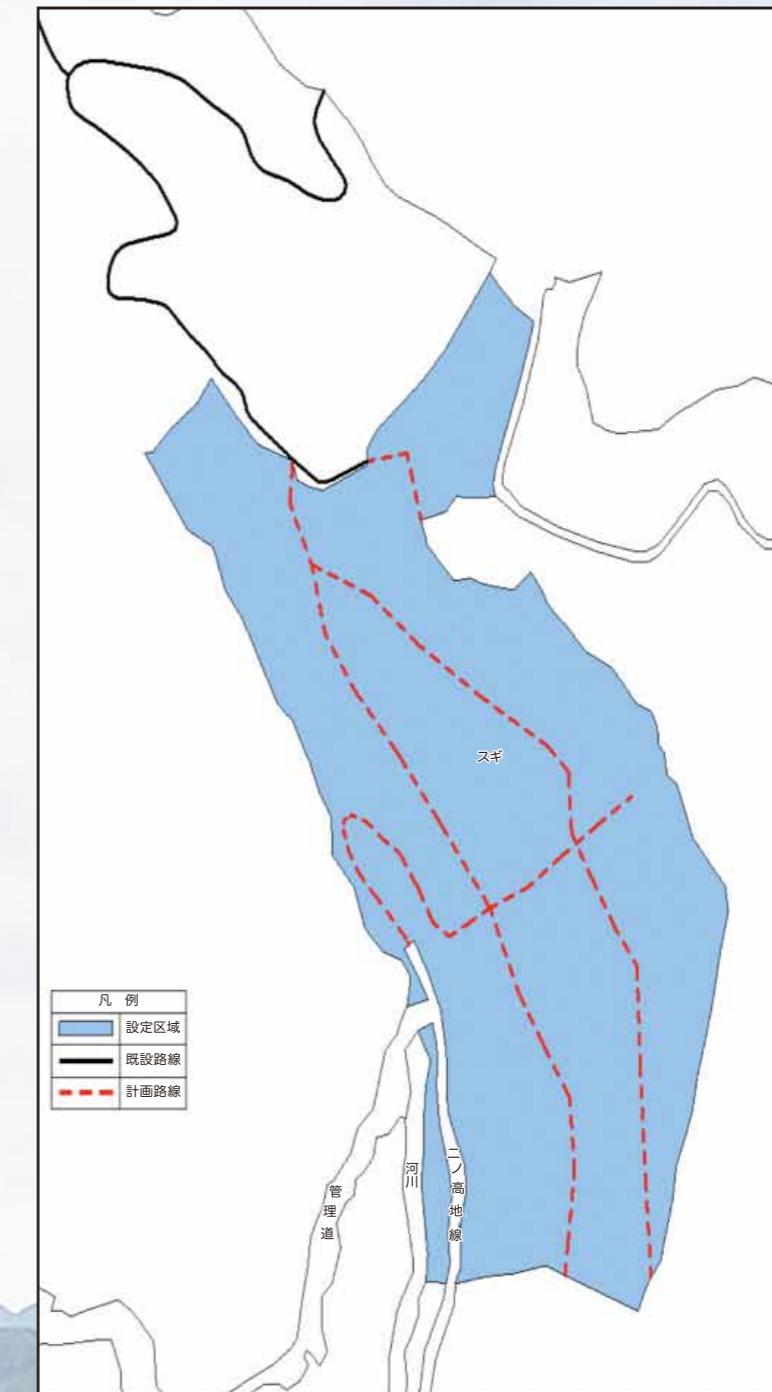
委員会	組織区分	役職	氏名	摘要
	太 良 町	町 長	岩島 正昭	会長
	太良町営山林運営委員会	委 員 長	末次 利男	副会長
	太 良 町 森 林 組 合	組 合 長	村井 樹昭	副会長
	佐 賀 県 林 業 課	林 業 課 長	石川 和則	
	林 業 試 験 場	試 験 場 長	外尾 康昭	
	杵 藤 農 林 事 務 所	林 務 第 二 課 長	佐熊昭一郎	
	学 識 経 験 者	治山林道協会常務	馬場 彰	
	佐賀県森林組合連合会	参 事	北村 伸介	

多良岳200年の森 ヒノキ団地



樹種	面積	樹齡
ヒノキ	38.73ha	42~51
スギほか	2.57ha	42~51
計	41.30ha	

多良岳200年の森 スギ団地



樹種	面積	樹齡
スギ	9.80ha	36~55

多良岳200年の森 位置図

